

成果の説明書

(氏名) 鈴木 耕太郎	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
○教育上の成果に関する事項	
<p>2022 年度は通年で演習 I (金曜 4 限)、演習 II (木曜 3 限) を担当、また前期には博物館概論 (金曜 1 限)、後期には基礎演習 (木曜 5 限)、民俗学 (木曜 1 限)、地域文化論 (金曜 5 限) を担当した。また前期リレー講義として「地域づくり論」(水曜 3 限・第 7 回・第 8 回)、後期リレー講義として「地域づくりを学ぶ」(水曜 3 限・第 15 回) も担当した。2022 年度も一昨年度につづき新型コロナウイルス感染症対策のため、講義内討議は行わなかったが、パパパコメントを用いた双方向性の講義 (民俗学・地域文化論にて実施) は授業評価アンケートでも好評を得た。また博物館概論では、初めて実際に学芸員として働いている方 (2022 年度は川越市立博物館の川邊絢一郎氏) を招いて、担当教員とのセッションを通して博物館業務の在り方を学生に伝えてもらい、また学生からの質疑にも答えてもらう機会を設けた。この点も受講生から好評であった。</p> <p>さらに博物館概論受講生を中心に任意参加の博物館・美術館めぐりを企画したが、(受講生を経由して話が伝わり) 結果としては学部の枠を超えて参加者が集まり、20 名を超える学生と共に富岡製糸場・群馬県立自然史博物館・富岡市立美術館の見学も行った。またゼミでは 8 月に (警戒度が下がったことも受けて) 金沢へのゼミ合宿を 3・4 年生合同で行い、2 年生の基礎演習では佐倉市にある国立歴史民俗博物館の見学に行くなど、課外での活動にも力を入れた。</p> <p>さらに受講生同士のピア・エデュケーションの促進という意味も込めて、民俗学・地域文化論では中間レポート提出者のなかから任意でレポート内容を報告してくれる受講生を複数名選び、レポート報告会を今年度も実施した。結果として、発表者だけでなく聴講している受講生から積極的な質疑が出るなど、活発な場となり、また他者の発表を聞くことで刺激になったとの前向きな意見を多数出された。</p>	
○職務上の成果に関する事項	
[学外業務]	
1 : 立命館大学日本文学会 評議員	
2 : 群馬歴史民俗研究会 例会委員	
3 : 伝承文学研究会 同人	
4 : 地方史研究協議会 2023 年度館林大会実行委員	
<p>なお、2022 年 9 月 10 日 (土) -12 日 (日) まで、本学にて令和 4 年度伝承文学研究会大会を実施。会場校担当者として従事した。結果、全国から延べ 50 名を超える方の参加を得ることができ、大会そのものも盛況に終えることができた。</p>	
[社会貢献活動]	
・地域科学研究所連携公開講座講師「疫病退散を願う祭りとは信仰——祇園祭と牛頭天王について——」(2022 年 5 月 28 日 (土)・高崎市中央公民館視聴覚集会室)	
・上毛新聞〈子ども新聞・週刊風っ子〉取材協力 (2022 年 6 月 12 日 (日) 発刊・特集「御朱印ブーム 由来は？」写真付コメント掲載)。	
・朝日新聞地域面「人・ひとめぐり」取材 (2022 年 8 月 29 日 (月) 朝刊・地域 (群馬) 面「疫病抑える神の研究 今こそ」写真付)。	

○研究上の成果に関する事項

【論文】

- ・鈴木耕太郎「利益と災厄から考える牛頭天王信仰——共同体関係の検討を中心に——」(『仏教文学』47号、2022年4月)
- ・鈴木耕太郎「『篋篋内伝』と祇園社——その関係性と影響について——」(『アジア遊学』278号、2022年12月)
- ・鈴木耕太郎「『牛頭天王曆神辯』における吉備真備批判の意味——篤胤と近世祇園社との共振——」(山下久夫・斎藤英喜編『平田篤胤 狂信から共振へ』法藏館、2023年3月)

【資料紹介】

- ・西野寿章・鈴木耕太郎「長野堰の成立時期に関する一考察 補遺」(『産業研究』第58巻2号、2023年3月)

【学会発表】

- ・鈴木耕太郎「『篋篋内伝』諸本比較から考える——巻一を中心に——」(第13回陰陽道史研究の会、2022年4月3日・ZOOM)
- ・鈴木耕太郎「中世神話としての牛頭天王縁起——読解から「顕われる」儀礼——」(第31回日本宗教民俗学会【公開シンポジウム】「神話・伝承と宗教民俗」パネリスト発表、2022年6月11日・ZOOM)

【研究会報告】

- ・鈴木耕太郎『長楽寺永禄日記』6月17日条後半輪読担当(永禄日記勉強会、2023年2月12日(日)・ZOOM)

2 その他の事項

- ・科学研究費助成事業 若手研究(課題名「中世から近世への転換期に作成された牛頭天王信仰に関するテキストの総合的調査と研究」)。

3 次年度以降の計画・抱負

【教育面および社会貢献活動】

教育面においては、授業評価アンケート等を活用し、受講生からの改善要求や要請に応えられるものは積極的に応えていく。またすでに一定の評価が得られている取り組みについても、改善点はないかを探り、教育効果も含めさらに改良を加えていきたい。

なお、2023年度より新型コロナウイルス感染症蔓延以前の状態に戻るため、講義内での受講生同士の討議は復活させつつ、パパパコメントなども適宜、利用したい。また引き続き、ゼミや講義を通じて課外活動となるフィールドワーク・実地調査を企画し、実行していきたい。また、ゼミ単位で社会貢献活動ができないかも模索したい。

【研究活動】

2023年度はすでに論文の寄稿依頼が2本来ているほか、自身が立ち上げた「牛頭天王信仰研究会」での発表・共著論考の執筆なども検討している。また「牛頭天王信仰研究会」でいえば、奈良県下の牛頭天王信仰に関する古文書の調査を行ない、学術誌などに紹介するため細かな調査、撮影を予定している。2023年度は科研費の最終年度であるため、研究課題をとりまとめ、発表・論考化を進めたい。